

Nougyou Nouson いしのまきNN通信



トヤケ森から望む石巻管内の風景

「いしのまきNN通信」は、石巻地域の農業農村整備事業に関連する活動等を広くお知らせすることを目的に、年3回程度発行しています。掲載希望の情報等がありましたら農村振興班までご一報ください。今後ともよろしく申し上げます。

大川地区・長面工区で 順次営農が再開されています



第43号の目次:

長面工区の営農再開状況	1
農地集積戦略会議の開催	2
三輪田地区の完工	
田んぼの学校2019	3
復旧農地作付状況	
派遣職員紹介	4

大川地区は、北上川の河口右岸に位置します。

太平洋と長面浦、北上川、そして農村が織りなす地区の景観は風光明媚なことでひろく知られていましたが、東北地方太平洋沖地震に伴う津波により地区全体にわたり甚大な被害を受けました。平成10年度から進められていた、県営ほ場整備事業の完工を目前にしてのことでした。

大川地区413haは、針岡工区175haと、長面工区238haで構成されています。比較的内陸寄りの針岡工区は早期に除塩を行い、平成26年に全区域の営農再開を果たしました。一方、針岡工区より太平洋に近い長面工区では北上川や海岸の堤防の決壊により、長期にわたり農地の大部分が水没した状態にありました。

長面排水機場をはじめとした揚水施設を復旧・整備し、湛水を排除した上でがれきを撤去して、ほ場整備を行いました。そして、平成27年に6haの試験作付を行い塩害の影響が無いことを確認し、令和元年度までに122haで営農再開を果たしています。

東部地方振興事務所農業農村整備部は、本年度も引き続き営農再開に向けて農地復旧工事を進めてまいります。



← 農地復旧工事が進められている長面工区



← 令和元年、営農再開した農地

農地集積戦略会議が開催されました

県は、ほ場整備事業に取り組む12地区を対象に、令和元年6月6日、7月10日、11日の3日間、第1回農地集積戦略会議を開催しました。

この戦略会議は、県や市、土地改良区、JA、農業振興公社、土地連などの関係機関が一堂に会し、農地集積目標の達成に向けた課題検討を行う場となっています。

今回は、平成30年度農地集積実績報告と昨年度末に整理した令和元年度の課題について、関係機関と情報共有を図りました。復興・創生期間が終了間近となり、各地区最終目標に向けた担い手要件の再確認や農地の計画的集積について話し合ったほか、目標達成年度に向けてのスケジュールを検討しました。

戦略会議は、今年度各地区ごとに3回の開催を予定しており、今回は10月下旬に予定しています。



▲ 広淵沼地区
(令和元年6月6日)



▲ 大川地区
(令和元年7月10日)



▲ 東小松地区
(令和元年7月11日)

石巻市三輪田(みのわだ)地区の事業が完工しました

石巻市(旧河北町)追波川右岸に位置する三輪田地区では、東北地方太平洋沖地震に伴う津波の被害による農地の復旧と併せて、ほ場整備工事を行い、平成29年に完工しました。

工事前は、用排水路は土水路で、排水路は浅く水管理に支障を来していました。また、農道幅員も2~3mと狭く、農業機械や生産物の運搬にも支障を来していたため、本事業において近代的営農を可能とする区画形状の大型化、用排水路及び農道の整備、暗渠排水などの整備を行いました。



▲事業により整備を行った引浪排水機場

震災の津波により農地に塩水が浸水したため、除塩作業を行いました。また、60cmの地盤沈下による湿害のため大豆などの作付に支障を来していたことから排水対策が課題となっており、その解消のために盤上げ客土し、引浪(ひきなみ)排水機場を建設しました。

平成29年に完成した引浪排水機場は計画排水量1.5m³/sです。揚水機は横軸斜流形式で口径400mm・モーター形式で動力30kwのものが1台と、口径700mm・エンジン形式で動力88kwのものが1台の計2台を設置しました。

田んぼの学校 2019

県営造成施設管理体制整備促進事業「東松島地区」では、農業農村の多面的機能や農業水利施設が有するはたらきについて、啓発活動に取り組んでいます。鳴瀬土地改良区・市・県の共催により鳴瀬桜華小学校の5年生を対象に令和元年5月13日、田植え体験に併せて用水の仕組みなどについて説明し、6月6日には生き物調査を実施しました。田植え体験では、田んぼに足を踏み入れた児童たちは湿った泥に足が包み込まれてゆく感覚に歓声を上げていました。次第に泥の感触に慣れた児童たちは協力し合って田植えをすすめ、田んぼはあっという間に児童たちが植えた苗で緑色になりました。

国営造成施設管理体制整備促進事業「河南矢本地区」では、多面的機能支払交付金事業に取り組む活動組織の協力により、地元の小学校で校外学習が行われています。6月21日に鹿又小学校5年生が、25日には前谷地小学校が実施しました。

施設見学では、「揚水機で25mプールを一杯にするのに、どれくらいの時間がかかるとおもいますか？」など職員がクイズを出すたび、児童たちはいつも元気に答えを返してくれました。“水土里(みどり)”あふれるゆたかな自然に触れ、地域の農業・農村について知識を深めた体験は、児童たちの地域への愛着をより深めるきっかけとなったのではないのでしょうか。



▲いっせいに田植えにかかる児童たち
(鳴瀬桜華小)



▲笈入(おいれ)揚水機場を見学する児童たち
(鹿又小)



▲生き物調査に取り組む児童たち
(前谷地小)

令和元年度 復旧農地作付状況

東北地方太平洋沖地震に伴う津波により甚大な被害を受けた石巻市大川地区・北上地区・牡鹿地区では、令和元年春、復旧工事が完了したほ場で営農が再開されています。これら3地区の営農再開状況は下表の通りです。

地区名	復旧予定面積	昨年度まで営農再開面積	R元年度営農再開面積	営農再開面積の割合
大川地区	413.0ha	279.2ha	20.8ha	約73%
北上地区	283.4ha	235.0ha	30.2ha	約94%
牡鹿地区	21.5ha	11.7ha	7.6ha	約90%



▲今年営農を再開したほ場(牡鹿地区)

大川地区では震災後、新たな農業法人が設立され農地の集積が進んでいます。

牡鹿地区では農地復旧に併せて、ほ場の大区画化と土地利用の整序化がすすめられています。

北上地区では、“北限オリーブ”の栽培が行われています。“北限オリーブ”は地域の復興の象徴として、新たな特産品となることが期待されています。



▲開花したオリーブ(北上地区)

災害復旧支援の自治法派遣職員のみなさん

平成23年9月1日から、災害復旧支援のため県外から自治法派遣職員の方々に応援に来ていただいております。現在、当部では神奈川県3名、愛知県1名、香川県1名の方が応援に来ています。また、これまでに徳島県、岡山県、島根県、三重県、佐賀県、兵庫県の職員の方にも応援に来ていただきました。当部では、自治法派遣職員のみなさんと協力し、農地・農業用施設の災害復旧業務に取り組んでまいります。

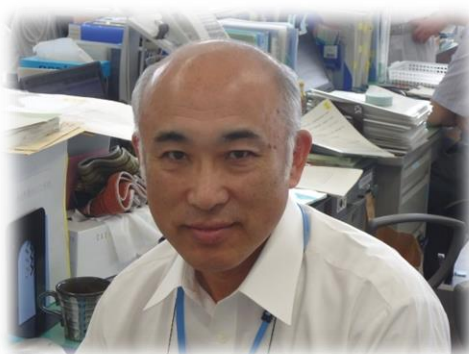


▲大芝 邦彦さん

神奈川県派遣



▲千葉 茂さん



▲勝又 俊博さん



香川県派遣

▲嘉田 吉晃さん



愛知県派遣

▲杉山 靖さん

宮城県東部地方振興事務所 農業農村整備部

(編集：農村振興班)

1日も早い災害復旧と
農地復興を目指して

〒986-0861 石巻市あゆみ野五丁目7番地 4階

Tel 0225(95)1411 (内) 2631 Fax 0225(96)4880

E-mail et-ss-nos@pref.miyagi.lg.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-ns/>

▲HPのQRコードです